

大和町の近世



目次

口絵	南魚沼市長 林 茂男
発刊のことば	南魚沼市郷土史編さん委員会 委員長 今成卓而
はじめに	
凡例	

第一章 村の成り立ちと支配

第一節 春日山堀氏と高田藩松平氏の支配

1 堀氏の支配と慶長検地	2
上杉氏の移封と堀秀治の入封	慶長三年検地
松平忠輝の支配	越後一揆
2 目まぐるしい領主の交代	堀直音の南魚沼支配
魚沼の長岡・三条・長峰領	堀家の内訌と改易
松平忠昌高田藩と福島正則領	16

第二節 松平光長高田藩の支配と村

1 松平光長高田藩の支配 23

松平忠昌から光長へ 高田藩の重臣たちと魚沼郡 寛永の郷村法度 組村の整備と大肝煎

小栗美作の執政と村

2 開発の進展と高田藩の年貢・諸役 37

活発な新田開発 芹田・一村尾村検地と「同所新田」 原虫野新田の開発

鰻嶋新田・海士ヶ嶋新田・水尾新田の開発 茗荷沢新田と雷土新田 高田藩の年貢と諸役銀 本途物成

小物成 口米 種貸利米 小役銀 足役銀

第三節 幕府代官の支配

1 天和検地と村 55

光長の改易と遺領の収公 天和検地の実施 一ノ江村の検地 芹田村検地帳 天和検地の打ち出し状況

2 幕府代官の支配と浦佐組 68

代官と役所 幕府領時代の年貢・諸役 江戸回米の負担 割元と御蔵組

第四節 会津藩預り所の支配と幕府直支配の復活

1	会津藩預り所の支配と浦佐組	82
	会津藩預り所 預り所の支配機構	
	大割元の復活	
	年貢の定免制と石代金納	
	揺れる預り所支配	
2	幕府直支配の復活と宝曆新田検地	93
	預り所から幕府代官の直支配へ	
	千種代官の支配方針	
	組合村の形成	
	年貢と石代値段	
	寛延検地から宝曆検地へ	
	宝曆新田検地の推進	
	宝曆検地の打ち出し状況	

第五節 再び会津藩預りとその後の支配

1	会津藩預り所の再支配	107
	幕府直支配から再び会津藩預りへ	
	大割元の再復活	
	年貢金納の進展と江戸回米量	
	雷土蔵の分立	
	赤羽村仁右衛門の大割元制批判の直訴	
2	天保以降の支配の変遷	121
	天保飢饉と浦佐地域	
	天保八年の最寄り替え	
	弘化三年の最寄り替え	
	文久元年の最寄り替え	
	慶応元年の最寄り替え	

第二章 村のしくみと村人の暮らし

第一節 村々の概観

1	浦佐組の村々	140
	村の成立	村のすがた
2	百姓と家	143
	村の百姓	家と家族

第二節 村のしくみ

1	村役人と村政	148		
	庄屋	組頭と百姓代	村役人の交代	村役人と文書の管理
2	村決めと制裁	153		
	盗み禁止の村決め	制裁		
3	五人組と宗門改め	155		
	五人組制度と五人組帳の作成	五人組の構成	キリシタン禁制と宗門改め	宗門改帳の作成
	村人の移動と登録			

第三節 村人のくらし

1 年中行事

正月 二月・三月・四月 五月・六月・七月 八月・九月・十月 十一月・十二月

161

2 衣食住

衣服 食事 住居

167

3 旅

伊勢参宮の旅 旅行費用

169

4 災害

天明の飢饉 天保の飢饉 洪水の被害 幕末のくらしと災害

173

第四節 教育と文芸

1 村の教育と寺子屋

村の教育の始まり 山崎家の寺子屋 米山東作の寺子屋 寺子屋の就学 教授の方法
寺子屋の教科書 実用知識の習得 開田と測量技術の習得

183

2 大和地域の和算

和算の歴史 算額奉納 大和地域の和算家 大和地域の算額 柳古新田観音堂の算額

196

3 村の俳諧

203

俳諧の広まり 浦佐村の俳諧 大和地域の俳人

第三章 浦佐組の宿駅

第一節 三国街道の成立と浦佐村

1 三国街道の成立 216

伝馬宿送りと宿駅 五箇村の伝馬人足 人馬の賃銭 三国街道

2 浦佐村の役割 222

浦佐村 割元屋敷の火災 村のにぎわい 毘沙門堂の門前町 屋根の葺き替え 参詣人

治安の維持 浦佐組と大肝煎 御蔵と他屋 浦佐船の運行

第二節 浦佐組の宿駅を通る人々

1 藩主と家族の江戸往来 236

村松藩主の通行 一村尾村の助郷 長岡藩主と家族の通行 そのほかの藩主の通行

2 幕府役人の通行 246

佐渡奉行 新潟奉行 巡見使

3 さまざまな旅人 251

遊行人 越後の寺院 無宿人の目籠輸送 女性の旅

4 荷物の輸送 253

鉛荷 年貢金 献上鮭 救済米 蠟・御用縮 飛脚の荷

第三節 浦佐宿と五日町宿

1 宿駅の概観 260

浦佐組の宿駅 五日町村の概況 本陣の維持 旅籠屋 問屋

2 宿駅の維持と助郷人足 264

浦佐宿の附通し 支配替えと助郷村 文久三年の助郷規定 道普請 継ぎ立ての失敗

3 元賃銭の割増し 269

駄賃銭の割増し願い 五日町宿の維持願い 雪中の増し賃願い

第四節 浦佐船の展開

1 魚野川の船運と浦佐河岸 273

浦佐河岸と船道 浦佐船道と船会所 長岡藩主の帰城と浦佐船 繁盛する浦佐河戸

2 回米の川下げと浦佐船 281

魚沼郡の回米 郡中春会合 御蔵改め 津出し 積み下げの例 郷蔵と津出し河岸
長岡詰・新潟詰庄屋 沖上乘り庄屋 川下げ賃米 川下げの諸入用 諸入用の賦課

目次

3 湊詰庄屋の持参金
 浦佐船の船出入り 292

坂戸城主堀直奇と浦佐船 大門与兵衛の裁定
 塩沢組回米出入り 宝曆年中出入り
 三か村船方の郡中願い出

第四章 大和地域の信仰と八海山、毘沙門堂

第一節 寺院・神社・仏堂

1 大和地域の寺院 298
 真言宗寺院 曹洞宗寺院

2 修験宗寺院と修験者 302

3 神職と神社 304
 神職 神社

4 仏堂 310

第二節 八海山信仰

1 祭神と登拝道 311

2	八海山と薬師信仰	登拝道	神社	大倉道と上村神主	機織の神	新登拝道と八海講中
					
						316

第三節 毘沙門堂と裸押合い・祭礼市

1	毘沙門堂と浦佐の風景				
2	毘沙門天の祭礼市				
						320 318

第四節 寺院・神社の行事と管理

1	行事と務め				
	禅宗・真言宗寺院	修験宗寺院	神社の祭礼と神主	檀那寺と檀家		
					322
2	境内と土地				
	朱印地と除地	毘沙門堂領地の管理	芹田村善應寺除地の村預り			
					326
3	寺院・神社・仏堂の造立と奉加				
	龍谷寺の造立と奉加	寺社の建立と荒山村の材木	穴地新田神明社の宮建立	建物の修繕		
	寺院・神社の造立とそり					329
4	僧位、官位の取得と費用				
	住職の交代	修験者と補任状	曹洞宗の転衣	神主と官位		
					333
5	葬祭と寺院・神社				
					336

葬式と寺院 神主の離壇・自身葬祭

第五節 村の生活と信仰

1 くらしのなかの信仰 339

山の神を祀る十二神社 新田村の稲荷神社 水難除けの神明社 尾花と諏訪神社 八朔と八海神社

雷と雷土神社 股倉神社と子孫繁栄 白山神社 疱瘡神 眼病と薬師信仰 赤虫大明神 寸白様

子の権現 取子と厄除け 道切り 道祖神 庚申 二十三夜塔

2 街道に並ぶ石塔 348

3 祖庭尊 350

4 弘法大師伝説 352

爪引地藏 目白杉 大師講と跡かくしの雪

第六節 信仰と旅

1 諸国信仰の旅 355

伊勢信仰 善光寺参詣と諸国巡礼

2 旅の宗教者 357

北は鳥海山、西は備中から 奉加をめぐって 木喰五行上人

第七節 幕末の動乱と寺院・神社

- 1 幕末動乱期の大和地域の寺院と神社
- 異国船来航 梵鐘の供出 長州出兵献金

362

第五章 農業と山川の利用

第一節 農業の営み

- 1 大和地域の農業
- 田畑の耕作 稲と畑作の品種 冬仕事

366

第二節 山野の利用と争い

- 1 山野の利用をめぐる争い
- 山野の利用 入会山と山手米 開墾と山の管理 割山の実施と山の管理 一村尾村との山論
- 代官への訴えと裁許 訴訟の決着へ

376

第三節 用水の維持と争い

1	用水の維持と水論	386			
	用水の維持	堰の管理と普請	水無川の右岸の用水	三用川沿いの用水	藪神地域の用水
	濁水と水論の発生				
2	雨乞い	395			

第四節 八色原の開発

1	八色原周辺の村々と村境い	397			
	八色原周辺の村々	海士ヶ嶋新田の入会原野	越後屋庄左衛門の開発計画	雷土新田と近隣の開発	
	穴地村・同新田と開発	二つの新田検地			
2	八色原の開発	404			
	魚野川兩岸の村々	水尾村の新田	中期の八色原開発	宝曆四年の八色原検地	後期の八色原開発

第五節 川漁

1	魚野川の川漁	411	
	魚野川の川魚と漁法	川役	鮭川の出入り

第六章 さまざまなりわいと金融・商い

第一節 縮と酒

1	縮	418
	青苧 村の青苧 白布から縮へ 七品運上 縮の生産 縮織り 縮や糸の商い 養蚕と紬	
	運上の復活 三品の品替え 甚右衛門の蚕種紙改め願い 生糸と蚕種紙の改め	
2	酒造	439
	浦佐組の酒屋 郡中の酒の売買 村での売り買い 幕府の規制と村の酒造 無株酒造と村人	

第二節 浦佐組の諸職

1	諸職の概観	450
	役銀・役永の納入状況 村の諸職	
2	村人の諸職	454
	往来する人々 鍛冶屋 桶屋 石工 大工 左官 馬の売買と馬喰	
3	一村尾村の孫左衛門と職人	461
	天明から文政年間の雇人 天保から弘化年間の雇人	

目次

4	家作と諸職	467
5	そのほかの諸職	464
	紺屋	
	木地師	
	茶屋	
	晒屋	
	研ぎ師	
	一村尾村の医師	
	水無川上流の鉾山と山師	

第三節 商いと金融

1	村の商い	475
	薬	
	塩	
	蠟	
	そのほかの商い	
	古松屋と村の商い	
2	日用品の買い物	488
3	金融	489
	取替金	
	雷土村利左衛門家の商い	
	頼母子	
	質屋	

第四節 市の争い

1	浦佐村の市	497
2	縮市をめぐる堀之内村との争い	497
	浦佐市と堀之内村の争い	
	争いの和解	
	和解後の商い	

主な参考・引用文献

503
-----	-------

執筆者一覧	512
郷土史編さん関係者名簿	513
資料所蔵者・協力者一覧	518
あとがき		
付図 大和町地域管内図		